

シテ期滿得免等成法ニ觸レ一目了然ナル訴ト雖モ悉ク  
 被告人ヲ答辨及ヒ對審セサルヘカラス果シテ然レ  
 ハ實際上或ハ適度ヲ失スル儀モ可有之ニ付前條ノ如キ  
 成法ニ觸レ一目了然ナル訴狀ハ答辨ヲ要セス明治八年  
 本省甲第十六號御達ノ通り直ニ其理由ヲ朱書シ訴狀却  
 下致シ可然カ相伺候條御指揮相成度候也  
 (指令)二十年四月  
 二十日  
 伺ノ通

但シ伺面ニ期滿得免トアルハ出訴期限ノ事ト見做シ  
 本文ノ如ク指令スル者也

第六百二條

明治十年四月十一日福嶋  
 裁判所ヨリ司法省ヘ伺

今般本省丁第二十九號ヲ以テ出訴之起頭被告ノ答辨ヲ  
 俟タス直チニ受理不受理ヲ判決スル等ノ一廢サレ候段  
 御達有之右ハ彼我契約上紛紜スル曲直ヲ答辨前ニ判決  
 スヘカラサルノ主意ニシテ法律成規ニ抵觸スルモノ乃  
 チ裁判管理ノ權限ヲ越ヘタル訴暨ヒ代人ヲ以テ出訴ス  
 ルニ共成規程ニ違フモノ又ハ訴訟用郵紙ヲ用ヒサル訴  
 狀或ハ丁卯以前平民相互ノ貸借或ハ証券印稅規則ニ觸  
 レタル證書ヲ始メ出訴期限ヲ經過シタル等布告布達ニ  
 於テ裁判ニ不及ト制定シタルモノハ人民之レヲ訴フヘ  
 キノ辭柄ナク官又之レヲ受理スヘキ道理ナキヲ以テ素  
 ヲリ受理スヘカラサル儀ト相心得可然ヤ果シテ然ラハ  
 從前ノ如ク目安糺ノ際契約上ノ紛紜ヲ是非セサルモ訴



狀ノ案檢ハ欠ク可カラサル儀ニ付受付掛ノ官吏ニ於テ  
適宜ノ調査ヲ爲スハ勿論ノ儀ト相心得可然ヤ此段相伺  
候條特別至急御指令有之度候也

(指令) 十年四月  
二十日

伺ノ通

第六百三條

明治十年四月九日靜岡  
裁判所ヨリ司法省ヘ伺

本年丁第二十九號ヲ以テ出訴ノ起頭不受理裁判被廢候  
旨御達ニ相成候處從前公布中出訴ニ及ト雖モ受理セス  
云々ノ成規アリ右ハ無論今般ノ御達ニ拘ハラズ直ニ之  
ヲ撥斥シ可然ヤ其他裁判上證據ニ相立タス又ハ無効云  
々等既ニ成規トナルモノ及ヒ證據ノ端緒ナキモノト雖

モ一旦之ヲ受理シ被告ノ答書ヲ徵シ而シテ其成規ニ憑  
據シ裁決致スヘキヤ疑團不掛右至急御指揮有之度此段  
相伺候也

(指令) 十年四月  
二十一日

伺ノ趣成文律ニ抵觸スルモノヲ除ク外總テ之ヲ受理シ  
至當ノ審糾ヲ遂クヘキ事

但證據ノ端緒ナキモノトハ何等ノモノヲ指シタルヤ  
尙ホ詳細取調再應可伺出事

第六百四條

明治十年九月十八日神戸裁判所  
長判事松岡康毅ヨリ司法省ヘ伺

過日大略面陳仕候通民事詞訟ノ目安糾御廢止ニ就テハ  
頗出訴期限ノ法律ニ影響ヲ生シ出訴期限法ニ於テハ一

訴訟心得



二ノ鄙見モ有之孰レ上陳ノ積ニ御座候得共即今ノ場合  
差向暫ク左ノ如ク取計申候得ハ稍情狀妥當ニモ可有之  
手否至急御指令被下度候也

第一 原告者訴狀ヲ差出候ハ、假令出訴期限過去リタ  
ル者タリモ其儘被告者ニ附シ返答書可令差出事

第二 返答書ヲ以未盡ノ義務有之事ヲ明認シ唯延期或  
ハ減少ヲ求メ候迄ニテ出訴期限ノ經過ヲ主張シ原告ノ  
請求ヲ拒絕セサル時ハ無論原告ノ請求通ト見込モハ相當  
執行ニ至ル迄モ限可申付事

第三 既ニ執行取懸タリモ被告者ヨリ更ニ出訴期限ノ  
經過ヲ主張シ原告ノ請求ヲ拒絕スル時ハ其申立ヲ採用  
シ木件取消スヘキ事

但假令出訴期限經過ノ後タリモ人民相互延期等ノ文  
書類取渡セシ者ハ他日取消ヘカラサル事

第四 前條ノ場合本件取消ハ致候共必竟被告者ノ過失  
粗漏ニ係レハ原告者ノ入費又ハ身代限揭示ニ付他ヨリ  
訴出候債主ノ入費等ハ仍ホ被告者ニ可令擔當事

別條 凡法律ハ人民ノ知了セシモノト見做ス故ニ出訴  
期限ノ内外ヲ不問雙方相互ニ約定書又ハ手簡等ヲ以テ  
一方ノ者自ラ義務ヲ認メシ時ハ總テ既往ヲ除棄シ原告  
ノ者ハ新ニ最初ノ權利ヲ喚起シ出訴ノ期限ハ更ニ此時  
ヨリ起算スヘシ後日至リ被告ノ者法律ヲ忘却セシト云  
フナ口實トシ之ヲ取消スナキ不可許況テ裁衙ノ手續ヲ  
經原告者ノ訴狀ニ對シ義務ヲ明認シ出訴期限ノ經過ヲ



主張セサルモノ執行スヘキニ及テ更ニ前言ヲ翻スヲコ  
於テ其自由ニ任スヘケン哉

(指令) 明治十年九月廿八日

第一條 裁判官ニ於テ其出訴期限ノ經過シタルト否ト  
ヲ明認スヘカラサルキハ伺ノ通

第二條 裁判官ニ於テ其出訴期限ノ經過シタル者ト認  
メサルキハ伺ノ通

第三條 審理中ハ格別既ニ裁判言渡ノ後ハ原告ノ請求  
ヲ拒絕スルノ申立ヲ爲スモ本件ヲ取消スヲ得ス尤  
モ控訴シタルキハ此限ニアラス  
但書 延期ノ証書ヲ渡セシ者ハ固ヨリ取消スヲ得  
ス

第四條 前條ノ指令ニテ了解スヘシ

別條 延期ノ約ヲ爲ス者ハ出訴期限ノ經過ヲ除棄スル  
ヲ得ルト雖モ明治五年第三百號布告第三條ニ準シ手  
簡等ノ往復書ハ此限ニアラス

第六百五條

明治十年八月一日高  
知縣ヨリ司法省ヘ伺

行政上ノ處分ヲ不服トシ人民一個ノ爲メ其管廳ヲ相手  
取リ人民ヨリ訴出候者行政官最後ノ處分ヨリ何月間ニ  
可訴出トノ御規則有之候哉又者無期限ニ候哉相伺候也  
(指令) 二十年八月四日  
伺ノ趣出訴期限ノ規則ハ無之候事

第六百六條

訴訟心得



明治十年一月東京  
府ヨリ司法省へ伺

一〇四八

代理人中山利愛民事調訟ノ件々別紙ノ通伺出候處右ハ  
一般人民ヨリ可伺出筋ニハ無之哉ニ被相考候得共代官  
人職分上ノ伺ニ付其儘進達候條何分ノ御指揮有之度候  
也

(指令)十年二月  
廿八日

各人民ニ對シ法律ノ辨明ハ一切不致候事

別紙

第一條 民事ノ調訟ハ可成丈ク一應勸解ヲ請ヘク云  
々御諭達ニ付テハ右可成丈ノ三字其含蓄ノ意味明解  
ヲ得難ク例ヘハ至急ヲ要スル事件ニ於テ一應勸解ヲ  
請到底不調ニ付更ニ本訴ノ手續キテ爲ス時ハ大ニ時

機ヲ失ヒ其損害ヲ受ル僅々ナラサルモノアリ該件ノ  
如キハ御諭達中可成丈ク三字ヲ活用シ直チニ本訴ヲ  
爲スモ不苦候事

第二條 勸解ヲ請ハ必ス本人若クハ至親ニアラサレ  
ハ爲ス能ハサルノ御成規ニ候得共本人疾病事故等ニ  
テ出頭シ能ハサル時ニ於テ親戚ナキカ又ハ親戚者老  
幼疾病或ハ事故アリ若クハ該件頗ル紛紜錯亂ニ涉リ  
親戚中代テ之レカ陳述ヲ爲ス者ナキカ如キ本人疾病  
平癒事故解シルヲ待チテ勸解ヲ請ハント欲スレハ時  
日遷延シ爲メニ多少ノ損害ヲ被ル者ナキ能ハス如此  
場合ト雖モ代理人タルノ名義ヲ以テ勸解代人タルハ  
爲スヲ得可ラスヤ果シテ然ラハ直チニ本訴ヲ爲シテ

訴訟心得

一〇四九



可然乎

第三條 例へハ被告人大阪府下ニ在リ原告人東京府下ニ在ル者モ亦民事ノ詞訟ヲ爲サント欲セハ先ツ該地區裁判所ノ勸解ヲ請ハサルヲ得ス原告人我カ職業ヲ廢シ遠ク數里外ニ出張シ許多ノ時間ト多少ノ入費ヲ消耗シ結局勸解相整ヒ其入以テ出テ償ニ足ラス抑ト勸解上入費ヲ請求スルノ權利ハ固ヨリ之ノナキ者ト雖モ其損害ノ償ヲ求ルノ權利ハ之アルヘキカ若シ求ムヘカラサルモノトセハ例へハ百圓ノ金ヲ請求スルニ二百圓ノ失費ヲ醸スニ至ラン如此モ直チニ本訴ヲ爲スヲ得カラス候ヤ

第四條 訴答文例第二十條中裁判役ノ曲庇壓制等ア

ルヲ以テ之ヲ上等ノ裁判所ニ申告スル云々ト有之直チニ該裁判官ヲ被告トシ申告ヲ爲シ可然乎

第五條 區裁判所ニ於テ御勸解上原被告人不服ヲ唱ヘ不調ノ附箋ヲ請ト雖モ若シ該裁判官ノ聽サ、ル片其附箋ナキモ直チニ本訴ヲ爲シ不苦ヤ又ハ該裁判役ノ曲庇壓制トシ上等裁判所へ申告ヲ爲シ可然哉

第六條 勸解不調ニヨリ附箋ヲ受取ルノ後其出訴期限内ニ係ル者ハ日數經過シ本訴ヲ爲スモ不苦候哉

右疑條奉伺候也

第四大區一小區小川  
町廿六番地平民

明治十年一月八日

中山利愛

訴訟心得



第六百七條

明治十年三月十七日東京  
裁判所ヨリ司法省へ伺

本年二月十九日第十九號御布告上等裁判所章程ニ各人  
民ヨリ諸官省等ニ對スル訴訟受理ノ廉掲載無之ト雖  
右ハ明治八年五月二十九日本省中第五號ノ布達ヲ以テ  
打退單行セラル、儀ニ可有之ヤ然レハ區戶長ニ對シ職  
務上ニ係リ被告トスル原告ハ必ス上等裁判所へ訴出ル  
等ト心得可然ヤ此段相伺候也

(指令)二十年三月  
二十六日

伺ノ通

第六百八條

長崎上等裁判所檢事局ヨリ司法  
省へ伺明治九年十二月廿日指令

第一條 諸官省出張所等ヲ相手取り吟味願出候節ハ地  
方檢事ニ於テ受理致シ判任官以下私罪ト見込ムルハ地  
方裁判所へ廻シ處斷ニ及ヒ可然哉

第二條 前條ノ場合ニ於テ若シ勅奏官ニ連及スルト見  
込者ハ上等檢事局へ相廻シ同局ニ於テ取扱處分ノ儀ハ  
本省へ相伺候儀ト心得可然哉

第三條 本省ヨリ一時出張營繕課等へ對シ吟味願出候  
節ハ上等檢事ニ於テ取糺シ判任官以下私罪ト見込ムト  
雖モ處分ノ儀ハ本省へ相伺可申哉

右ハ差向候事件有之候條至急御指揮被下度候也

(指令)

訴訟心得



第一二條 諸官省出張所等ヲ相手取吟味願出候節ハ各  
檢事ニ於テ一應之ヲ承ケ其勅奏官等ニ係ル者ハ直ニ  
取扱方伺出テ其判任官以下ニ係ル者ハ伺ノ通リト必  
得ヘシ

第三條 前條指令ノ通尤判任官ニ係ル者ト雖モ伺出ヘ

第六百九條

京都裁判所ヨリ司法省ヘ伺明  
治十年十一月二十七日指令

人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ハ各上等裁判所ニ於  
テ受理スル御成規ニ有之候處人民ヨリ人民ニ對スル地  
方裁判所權限内ノ訴訟ニシテ其事件ノ官廳ニ關連スル  
事アリ書面往復ノミニテ難盡事アル節ハ假令ハ貸借事

件ノ被告者ヨリ該件ハ嘗テ其官廳ノ命ヲ受ケ何事業取  
扱中借入シタル金ニシテ當今其事業ヲ廢止セラレ計  
帳簿等總テ元官廳ニ引送リタルハ此事ニ付テノ義務ハ  
其官廳ノ負擔スヘキ筋ナル旨申立其言フトコロ理アリ  
ト見認ムルモ其官廳ノ承認アラサルハ果シテ地方裁判  
所權外ノモノトモ難決其官廳ニ向ツテ右事由ヲ照會ス  
ルニ被告言フトコロト反對ノ返答アリ依テ猶ホ被告ヲ  
尋問ノ上數回往復スルモ事理彌々喰違到底對審ニアラ  
サルハ明瞭ナラサルノ類引合人或ハ預審ノ被告トシテ  
主任ノ官員喚出シ對審ヲ遂ケ判決ヲ下シ候テモ不苦候  
哉  
右至急仰御指令候也

訴訟心得



(指令)

伺ノ通

第六百十條

大審院ヨリ司法省へ伺明  
治十年十二月六日指令

明治九年一月廿二日付第五號御省ヨリ各上等裁判所エ  
ノ御達ニ人民ヨリ院省使府縣ニ對スル訴訟ニ付明治七  
年第二十號ヲ以相達置候處右ハ行政司法ノ裁判權限ニ  
於テ相混淆ヲ免レサル儀モ有之候ニ付追テ御規則相立  
候迄右ニ關スル訴訟ハ總テ本省ニ伺出指令濟ノ上受理  
可致候此旨相達候事ト有之右ノ御主意ハ受理スヘキモ  
ノト認ムル訴狀ニ限リ伺出ヘキ儀ニ候哉又ハ受理不受  
理ニ不拘伺ノ上處分スヘキ儀ニ候哉今日ニテハ目安糾

(指令)

ノ式被止候ニ付都テ伺ヲ經ル義トハ存候得共從前各上  
等裁判所ノ定規ニ對シ疑義ヲ生シ候ニ付此段相伺候也  
伺ノ趣ハ都テ伺出ヘキ儀ト可相心得候事  
但權限違等ニテ全ク受付スヘカラサル者ハ此限ニア  
ラス

訴訟心得



正誤

七六丁 (第九十四條) (第四十九條)ノ誤  
 七〇三丁 (第四百廿五條) 新聞條例ノ部へ記載ス  
 八四五丁 (第四百四十九條) 貸借ノ部へ掲出ス  
 誤テ此所へ掲出ス

明治十一年四月廿七日版權免許



編輯人

高知縣士族

田中 信 顯

第一大區十三小區  
濱町一丁目一番地

出版人

和歌山縣平民

北島 茂 兵衛

同大區六小區通  
壹町目十五番地

發兌人

東京府平民

須原 鐵 二

同大區同小區西  
河岸町十二番地

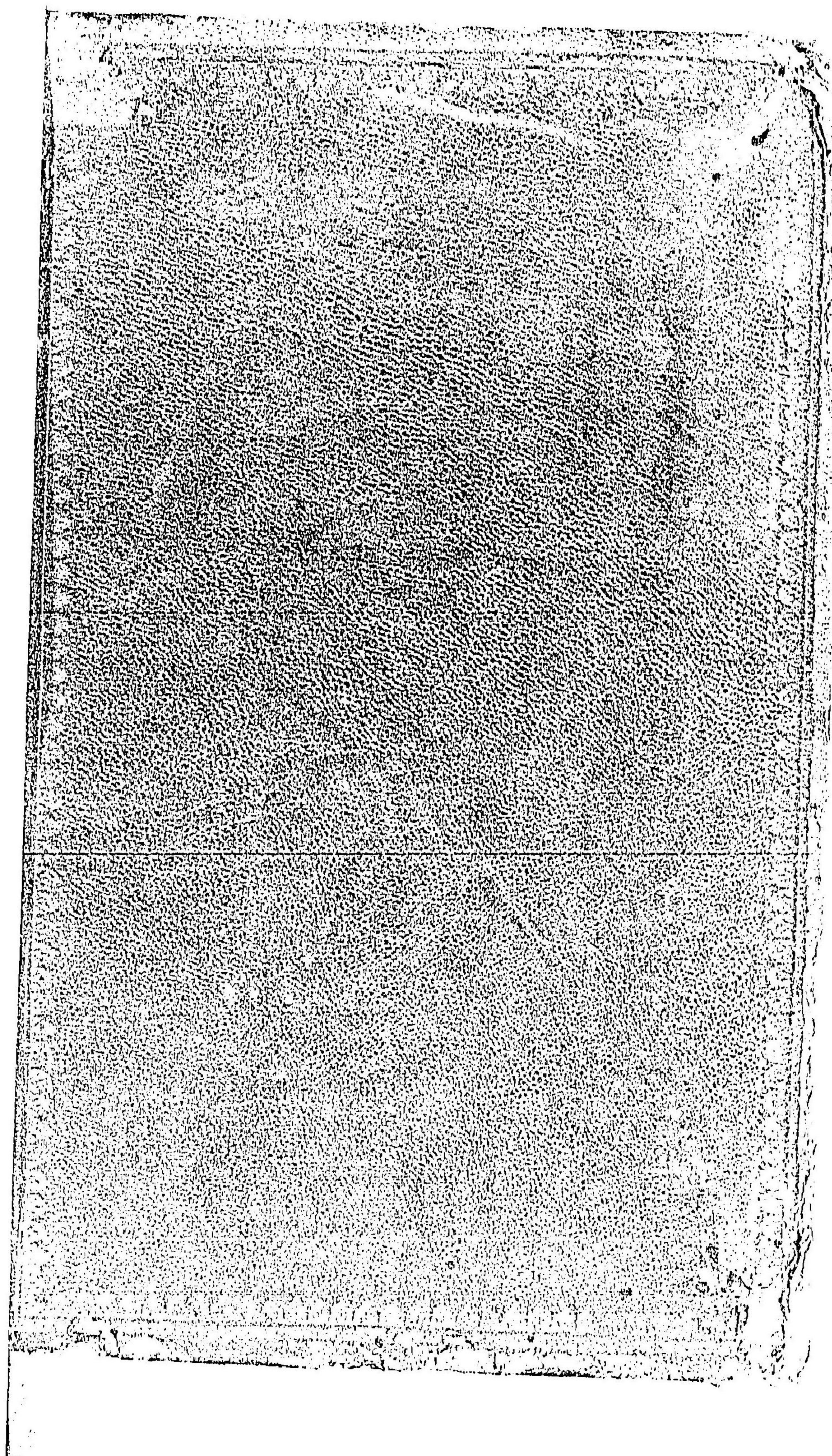






|     |
|-----|
| 318 |
| 4   |









|                 |        |        |             |   |
|-----------------|--------|--------|-------------|---|
| 東 京 國 立 大 學 書 館 |        |        |             |   |
| 一<br>三<br>冊     | 五<br>號 | 三<br>架 | 二<br>九<br>函 | 類 |

禁  
電  
子  
式  
複  
寫



